

ガーナでそろばんプロジェクト 99 号(2022 年 2 月 28 日)

★★ 未来への軌跡 ★★

2月、そろばん教室を再開しました。2020年1月『弾き初め』をした日、今年もそろばん教室に通い一生懸命練習をする子どもたちに伝えたもののコロナ禍となり約2年あまりそろばん教室を開室することは出来ませんでした。この2020年1月の開室で、2011年8月にそろばん教室を開室してから29回目でした。迎える300回の記念日は、豪華ではないにしてもクリスマス会のようにお菓子やジュースを用意して子どもたちと祝いと考えていました。奇しくもその300回記念のそろばんは2年ぶりのそろばん教室となったのです。10年という月日が築きあげた300回は、心新たにリスタートする記念日にしました。この10年のそろばん教室開室は一筋縄でいくものではなく、様々なことが起きました。答えの写し合い教え合い、携帯電話の計算機能を使って乗算除算の答えを出す恵知恵の働かせっぷり、教室終了後のパンの時間になると、幼い兄弟をたくさん連れて現れるそろばん教室には通ってなく学校の在籍も不明な子どもも出沒、練習プリント終了後に「褒美としてあげたボールペンを貰った子どもが使っているのではなく親が使っている事や、また「褒美にあげた12色のボールペンに他の子どもが群がり貰ったお菓子を奪われたりと、たくさん腹ただしく悲しくなる事がおおくありました。そうした中、教室に通い黙々と練習に取り組みそろばん式計算が出来るようになってきた子どもが小さな村の吹きさらしの教室から生まれてきています。そろばんの計算方法を身につければ生きていくうえで役にたつ、そう信じてやっています。先日、SNSのコミュニティの中で、このそろばん教室に対しての意見の書き込みがありました。「海外の人に無料でそろばんを教えることをしないでほしい。」「未来の事を考えて指導しているのか」「誰一人取り残さない取り組みをどのように考えているのか」

正直この書き込みはとても堪えました。ただ、堪えがたい内容ではありませんが、私には他の誰もが体験するようなことではないかけがえのない体験があります。そろばんを教えるきっかけとなった「トシコ、ニオがわかった！ニオがわかったんだよ！」と言った中学生の言葉です。中学生でも計算は棒を書いて計算する子どもがいる中で、初めてそろばんのデモンストレーションした時に、9から10に移った時に目を輝かせて言った言葉は決して忘れることはないですし、またこの時の事は決して忘れてはいけない事だと思っています。また2024年グローバルフェスタに於ける写真展でそろばん教室の「コマが受賞しました。その写真のタイトルが「未来への軌跡」です。受賞は過去の栄光にすぎないかもしれませんが、このそろばんが確実に「未来への軌跡」なのです。300回を迎え、心新たにリスタートするもの、この地で無料でガーナの子どもたちに教えていくことは変わらず、未来を創り出すのは、そろばんを学びに来ている子どもであり、私はその各々が未来の扉を開けるお手伝いをするお役目なのです。これまで築きあげてきたこと、今やっている取り組みはぶれずに自信を持って未来への軌跡に相応しくやっていくことなのです。



協賛

トモエそろばん様

報告 TOSHIKO